

南国市指定史跡「前浜掩体群」 5号掩体公園の整備

【前浜掩体群について】

指定年月日：平成 18 年 2 月 21 日（南国市史跡指定）

指定概要：

掩体は飛行機の格納庫で、高知空港の前身である高知海軍航空隊基地の施設として終戦間近の 1944 年（昭和 19 年）に建設されたものです。防衛庁（高知空港史）の資料によると、当時、中型 15 基、小型 9 基、W 型 17 基あったと記されています。掩体は、敵の攻撃から飛行機を守るための構造物で、その中には、鉄筋コンクリート製のもの、木や竹、土で造られたもの、屋根がなく擁壁のみのもなどもありました。

現在残っているものはコンクリート製のもの 7 基だけですが、当時どの掩体にも中央の滑走路からそれぞれの掩体までは東西 3 本、南北 4 本の幅約 40 メートルの誘導路がはりめぐらされていました。

掩体の天井には、むしろやセメント袋のしわの跡、型枠の年輪の跡が残っており、当時の作業の状態を目の当たりに見ることができます。

掩体は高知県内で残されているのはここだけであり、全国的にもこれだけとまって残されている例はあまりありません。



【5号掩体について】

所在地：南国市前浜 1739 番地

規模：幅 22m、奥行き 12m、高さ 5m

6 基残る小型の掩体の一つで、北側に位置し、南東向きに開口しています。

一部に建設時の型枠の板がそのまま残されており、内側のコンクリートには靴の跡や型枠の年輪等がくっきりとついています。

戦後住居として利用された時期があり、前面開口部を塞ぐ壁を造った柱が 1 本残っています。開口部の下部には柱穴をコンクリートで造っています。

【前浜掩体群保存整備検討委員会】

平成 22 年度から、地元代表者、建築、歴史、考古学の専門家等からなる前浜掩体群保存整備検討委員会を発足しました

委員会では、貴重な戦争遺跡として、将来にわたり保存し、平和教育の教材として活用するという基本方針を定め、掩体の戦争遺跡としての価値を損ねないように補修・補強を行うという方向性のもとで、具体的な整備方法を検討しました。

【発掘調査】

調査主体：南国市教育委員会

調査期間：平成24年10月1日～10日

調査面積：44㎡

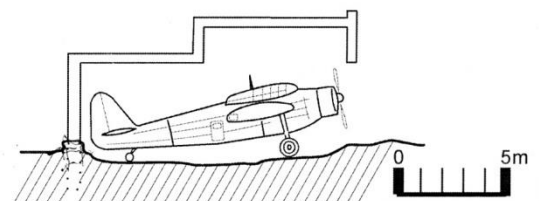
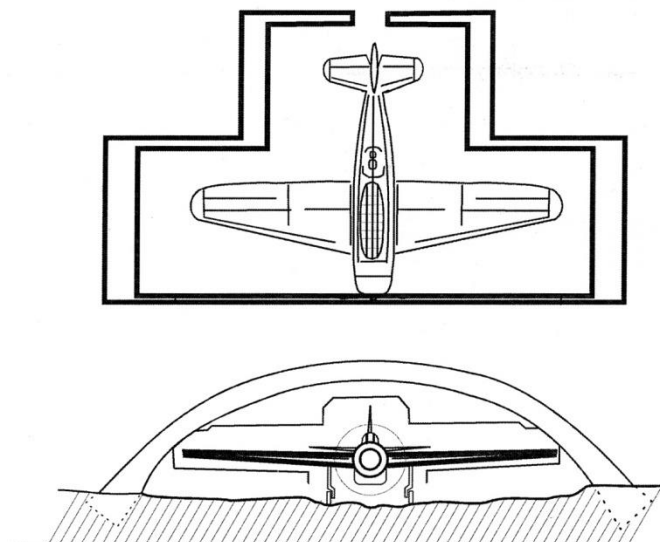
調査目的：公園整備を行うにあたって、掩体の基礎形状の確認と内部の床面施設を確認するために実施しました。

★掩体内部の調査

- ・機体格納部分は、機体の形に掘りくぼめられた半地下式になっていたことが確認できました。
- ・主翼部分は胴体部分より掘り込みが浅く、主脚の留め位置に浅い穴が掘られていました。
- ・胴体部分の中央には、機体を後ろ向きでまっすぐに収めるための尾翼車輪の誘導溝と考えられる細い溝が掘られていました。また、後ろ出口の内側は階段状に成形されていました。



- ・掩体内部は、大量の川原石が混じった土で埋められており、ガラス瓶やヤカン、瓦、ガラス、鉄釘・貝殻などの生活雑器が捨てられていました。戦後、周囲を耕作地に戻すときに、誘導路に敷かれていた石と一緒に埋められたと考えられます。



★掩体外部（コンクリート基礎）の調査

・前部アーチ部分

地表下 1.2mまで基礎が入っており、地面に対して斜めに掘り込まれた穴に直接コンクリートを流し込んだようです。

掘り込まれた穴よりも 7 cm程地山に食い込んでおり、自重で沈下している様子が確認できました。



前部アーチの基礎

・後部アーチ部分

地表下 1.1mまで基礎が入っており、先端は屈曲して地面に対して直角になっています。



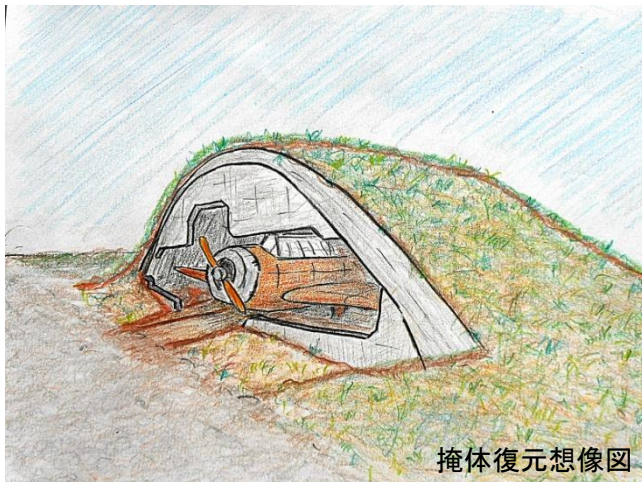
後部アーチの基礎

・壁部分

アーチ部と違い、基礎は 60 cm程の深さしかありません。アーチ部とは別に造られているため、基礎の間に隙間が空いています。

★発掘調査によって分かった掩体の姿

これまで、掩体は現在の地表面の高さで使われていたと考えられていましたが、調査によって、機体の形に掘りくぼめられた半地下式構造で、車輪誘導溝が掘られていたことが初めて確認されました。



掩体復元想像図

ました。

他にも、掩体を建設するにあたって、掘削土量を減らすための工夫や、高度な技術で計画的に造られた様子が随所に見受けられます。

地元の方の証言から、掩体入口に扉が付けられていたことも分かっていますが、残念ながら今回の調査では確認できませんでした。

発掘調査によって、記録には残っていない様々な特徴が判明しました。

◆「前浜掩体群」見学に際しては下記の点をご留意ください◆

1. 駐車について

- 前浜公民館の利用の妨げにならないように、できるだけ説明看板側に寄せて駐車してください。
- 掩体周辺の道路は農道ですので、車を止めると農作業の妨げとなります。掩体周辺への車の乗り入れはご遠慮ください。

2. 見学について

- 掩体内部は危険ですので立ち入らないようにしてください。
- 5号掩体以外の掩体周辺はすべて私有地です。畑や田んぼには立ち入らないようにしてください。あぜ道や農作物を痛めないようにご注意ください。

【公園化整備】

★総事業費：約2, 180万円

★整備内容

◎破損状況調査

掩体が建つ場所は地表下2.5～2.7mまでシルト層が堆積しており、掩体はその層の中に建っています。そのため、自重で沈下したことで前部アーチに股開きが生じており、それにより前部天井に大きな×字状のクラックが発生しています。その他にも全体に大小様々なクラックが見られる状況です。

さらには、クラックからの雨漏りも起こり、コンクリートや鉄筋の劣化を招いています。

◎強度調査

- ・反発度法によるコンクリート強度調査
- ・電磁波レーダー法による鉄筋探査

鉄筋コンクリートによる構造物ではあるが、鉄筋の数が少なく、前後方向には鉄筋が入っていないことが分かりました。

大戦末期で鉄などの物資が不足していたためではないかと考えられます。



鉄筋探査作業

★修理・補強工事

◎工期：平成24年12月～平成25年3月

上記の調査をうけて、主に3点の補修・補強工事を行いました。

- ・H鋼による股開き防止
外周にH鋼の枠を巡らし、基礎と固定することで今以上の股開きを防ぎます。
- ・クラックへの樹脂注入補強
- ・含浸剤によるコンクリート防水加工

水の浸透によるコンクリートや鉄筋の劣化を抑えるために行います。



補強工事

【おわりに】

南国市には、掩体の他にも浜改田や物部の「トーチカ」や高知大学農学部キャンパスの「通信所跡」、陣山の「送信所跡」など、数多くの戦争遺産が残されています。そうしたものも含めて、戦争は二度と繰り返してはならないという教訓を後の世代にも訴えるための身近な平和教材として伝えていく必要があります。



浜改田のトーチカ



物部のトーチカ

平成25年5月発行 南国市教育委員会生涯学習課
お問い合わせ先：☎088-880-6569